旦殿御の澤市さん」で澤市を見上げ、「たとへ火の中水の底」で離れ、兩手の人差指を交る〳〵出して火の中と水の底の心持を分け、「未來までも夫婦ぢやと」で傍へ寄り「思ふばかりか」で膝に縋り、「これ申し」で顏を見上げ、「お前のお目を直さんと」で下手へ來て「この壺阪の觀音樣へ」で右の手を出して觀音樣の方へ見當を附け「明けの七つの鐘を聞き」で空を見て「そつと」で上手向になり、「拔出で只一人」で「チウテン」（兩手を突出して掌を上に反す形）をして、忍び出る振を見せ、「山路厭はず三年越」で、右の手で山を敎へて（山の形を二度畫く）澤市の方に寄り、「切なる願に御利生の」でその手で拜み、「ないとはいかなる報ぞ」で手拭を持ちて咬へ身をねぢて泣き落す。「觀音樣も聞えぬと、今の今まで恨んで居た」上手を向き、手を膝に突き、「私の心も知らずして」で傍に寄り、「外に男が」で上手から奥を見て、「あるやうに」の間に手拭で二度澤市の肩を輕く打ち、「今のお前の一言が私は腹がたつわいな」で澤市の膝に手を掛けて泣伏し「おオおオ、おオおオお」と盛込む節に合せて足拍子をさせながら下手へ來て、「口說き立てたる貞節の涙の色ぞ誠なり」で坐つて左の足を立膝にし、顏を下手向に仰向け兩手で手拭を扱く樣に持つて眼に當て、その手拭をその儘下して口に啣へて泣く。「始めて聞きし妻の誠、今更何と澤市が」で體を乘り出し、「詫の詞も涙聲」で左の片膝を立て、「あゝこれ女房共、何にも云はぬ、勘忍してたも」で右の手を出して拜み、「誤つた〳〵〳〵わいのう」で右の袖を下から顏に當てゝ泣伏し、「もう、さうとは知らず、不具の癖に愚痴ばかり、これ堪へてたもれとばかりにて」で、お里を探る心で拜み、「手を合したる詫涙」でお里の肩に手を掛け「袖や袂をひたすらん」で後へ下り手を合せるが、こゝで澤市の着附の肩が自然に下り黑襟の掛つた桃色の襦袢がほの見える。

●吉田玉造逝く

文樂座人形遣ひの座頭

御靈文樂座人形遣ひの座頭として桐竹紋十郎と共にその重鎭たりし吉田玉造はかねて肺を患ひ療養中なりしが昨日正午十二時遂に不歸の客となれり。文樂座人形遣ひの寂寥を思ふと共に轉た藝壇のために愛惜に堪へざる心地す。同人は幼名を津田源吉と呼び西區新町北通二丁目醬油商通稱麩武事津田武兵衛方の雇人某の實子なるが幼年の頃より人形を遣ふ事を好み九才にして初めて故玉助（故玉造の倅）の門人となりて玉七と名乘り居りしが、或る事件のためこれも故人吉田千柳（當今の吉田兵吉の實父）事佐々木某の養子となりて佐々木熊次郎と本名を改め明治十八年には師匠と共に東京猿若町に新設したる文樂座に出勤し技ます〳〵進み歸阪後翌十九年七月師の玉助死亡後廿二年三月に至り師

名玉助を襲ひて相變らず文樂座に出勤し、今より六年前桐竹紋十郎と共に東京に赴きて明治座に出勤し、翌年再び紋十郎（大隅太夫一座）等と東上して歌舞伎座に出勤し好評を博せり。元來同人は餘り地方巡業をなさず東京等を除きては横濱京都神戸の外は出稼ぎせしことなく昨年五月一日亡玉造の遺言により、故玉助とは義兄弟なりし紋十郎後見となりて吉田玉造と改名し盛んなる人氣を得て文樂座に出勤中同年文樂座にて「白石噺」「お俊、傳兵衛」「卅三間堂」等を興行中おのぶ、お俊、平太郎等を勤めて評判宜かりし折から同月廿九日風邪の心地にて休業し夫れより今橋二丁目の自宅にて療養中肺結核と變症せしかば醫師の注意にて檀那寺なる天滿西寺町法輪寺の座敷を借りて出養生する事となりしも寒氣の強き爲め目下の住宅北區菟我野町に一戸を借受け只管養生を爲せし程にて其の後はぶら〳〵と日を送り本月一日には天滿の天神へ參詣などする位になりしより家内の者も大いに喜び居りしに數日前より自分にも到底望みなき事を悟りしものか妻なる千賀（四十）を枕邊に呼びて遺言などをなし養子秀一（六つ）の事また弟子の事總て死後の事を語り又その以前に法輪寺に賴みて戒名を請ひ「永壽院善譽玉泉居士」と附けられしを此の上なく喜び居りしとの事なるが既に死期を悟りてか昨年改名の際最眞先より惠まれたる美麗なる緞帳幕の如きも法輪寺に寄附し同寺の打敷き其の他に用ふる事になさしめたり尙ほ同人は幼年の頃より養父母に孝養怠りなく同業者間の孝行者と稱せられ技藝はまた紋十郎に迫らんとするものあり。その十八番とする處は演劇で云へば所謂突轉ばしの紙屋治兵衛、或は忠兵衛などにて津太夫をはじめ攝津大椽の如きも同人の技倆を賞讃して措かざりき。人形界落漠の今日彼を失ふ事返す〳〵も遺憾なり、また同人には男女七人の同胞ありしも目下は男のみ三人となり兄は當地に居らず。實弟は玉六と稱びて同じく文樂座に出勤しまた重なる門弟は助太郎（元才治の弟子）玉次郎、玉子、玉吉等なり。享年四十二才。葬式はまず假葬を爲し置き文樂座の千秋樂を待ちて本葬を執行するなるべしと。（明治四十年三月廿四日　大阪毎日新聞）

東京事務所（澁谷區金王町九 竹本染登方）

鸚鵡會

京都事務所（東山川端四條 吉きの 電祇園七六五）